

草津太陣

本陣2軒はいずれも田中姓。田中九蔵、田中七左衛門 九蔵家は文禄期にすでに伝馬の継ぎ立てをしていた。 七左衛門家は寛永年間(1624-44)に本陣拝命。現存。 宿帳には皇女和宮、吉良上野之介、浅野内匠頭など 記録残る。



立木油社

JR草津駅 🍝

中山道との分岐、明治19年に トンネルが掘られると東の 覚善寺前に移動



卍 覚善寺



草津2丁目

創建は神護景雲元年(767) 草津 祭神常陸の鹿嶋明神(武甕槌命) 社伝によると鹿嶋より影向 ときこの地の榊の立木に 遷座した後大和に遷座 したという。

☆/卍

野路小野山製鉄所跡

8世紀ごろの操業と思われる。国史跡

矢倉1丁♬

框門黒

文化13年(1816)建立 目改め所跡 東海道では品川、府中と草津 の三箇所。物資の動き監視の

ため聖徳2年(1712)六代 将軍家宣が設ける。

川辺 目川池 この辺り目川の立場が 血楽茶屋伊勢屋跡 あった。

支配下にあった。





稲荷神社 鈎の陣屋跡

手原駅

栗東IC

草津線

六地蔵

博物館

梅木立り

新善光寺山

日和中散本舗

室町1九代将軍足利義尚は近江における 公家寺神社領を回復すべく六角高頼を 討伐すべく出陣し、長期化に備え延暦寺 僧真宝坊の居館(近くの安養寺)に陣を おいた。"鈎の陣"

東海道近江:06伊勢落一目川一草津一矢倉一野路

鈎の陣跡

草津宿 石部宿より2里半17町54間。

本陣2、脇本陣2、旅籠72、町並み南北7町15間半

東西4町38間。近江にある宿の中では最も短い宿

中山道との分岐点。村は膳所藩支配、宿は幕府の

六角高頼は甲賀に逃亡。義尚はこの陣で 日々歌会、古典購読など学問芸事を嗜んだ。 2年後此処で病没。以後廃れる。

新善光寺

縁起によると仁治年間(1240-43)に当地豪族 小松左衛門尉宗定が長野の善光寺に参詣。 参籠中に夢のお告げにより如来堂を建立し 善光寺如来を安置したのに始るという。 現本堂は寛文元年(1661)に膳所藩主本多 俊次が再建。



瓢泉堂(うばがもち跡地)の軒先に

「石やはせ道 これより廿五丁 大津へ船わたし」 この道標は享保15年(1730)高さ5尺のものが建て られたが旅人に見難いとゆうことで寛政10年(1790) に矢橋の船持ちによって建てられた 瓢泉堂今はひょうたん他民芸店、うばがもち店1号線に。



文治元年(1185)源平合戦増ノ浦で義経に 敗れた平氏の総大将宗盛と長男清宗と 共に捕虜となり鎌倉に連行されるが鎌倉 に入れず京都に戻される途中、宗盛は篠原 斬首され、清宗は此処で斬首される。 首は京都六条河原に晒される。(享年17歳)



野路の玉川

この辺り一帯萩が咲き乱れ、玉のような泉が湧き 出ていた故事に由来。詩歌の歌枕として有名。 野路は平安一鎌倉時代にかけて宿場があった 宿が草津に移動してから寂れる。

"あすもこむ野路の玉川萩こえて 色なる波に月やどりけり" 千載集 源俊頼



天平7年(735)良弁僧都の創建との伝え 草津で最古の寺院。承久の乱で焼失。 足利尊氏、義持、義尚らに手厚く保護 される。関ヶ原合戦後家康上洛の時宿 となる。堂内には南北時代の本尊阿弥 陀如来像、両脇侍像(国重文)がある。



六玉川

桜と山吹 調布の玉川 野路の玉川 萩 大阪 砧(きぬた)の玉川 卯の花 和歌山 高野の玉川



かっては5軒ほどあった和中散本舗、本家の是斎のみ 現存。大角弥右衛門氏宅。茶屋本陣も兼ねていた。 和中散は生薬を粉にした胃薬。家康もこの薬を飲み 腹痛が治ったとゆうことから和中散と名づけたという。 街道南側、本屋、書院、庭園・・・・。北側馬つなぎ 薬師堂・・・。本屋店先には石臼のある仕事部屋残る

